

ブラジルから見る世界の課題

学校所在府県：大阪府	指導時数：7時間
学校名：大阪市立山之内小学校	対象学年：小学5年生
名前：藤原 愛子	対象人数：30人
実践教科：道徳・総合・外国語活動	

1. 教師海外研修を通して感じたこと

教師海外研修を通して、実際に体験することの大切さをすごく感じた。本やインターネットで書いてあることだけでは、どうしても内容が薄くなってしまう。今回、ブラジルが抱える問題や課題について事前に調べてから研修に参加したが、実際に足を運んでみると、本やインターネットからは分からなかった問題の背景が見えてきた。

ブラジルでの教師海外研修後には、2つのことに視点を置き子どもたちに伝えた。

一つ目は、アマゾンの森林破壊の問題についてである。子どもたちは、“遠い国ブラジルで起きていること”と捉えているが、アマゾンの森林破壊は日本にも深く関わっている。そのことに気づかせ、子どもたちと共にこの問題を自分の問題として考えていった。そして、“アグロフォレストリー”という新たな農法のメリットを子どもたち自身で考える活動を行った。

二つ目は、日系ブラジル人についてである。日系ブラジル人の人々が歩んできた歴史を知り、日本から遠く離れたブラジルに、日本のことを思いながら生活する人々がいることを伝えた。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

4月当初、私は「外国に行ってみたい？」と学級の子どもたちに質問を投げかけた。すると、「行ってみたい！」と答えた子どもたちが半分。あとの半分は、「外国は怖い」「日本から出るつもりない」など、外の世界に閉鎖的な態度だった。

私は、“地球で起きている問題を、自分の問題として考えてほしい！”そして、“子どもたちから何か行動が起これば！”と強く思った。グローバル化が進む今、地球規模で物事を考えることは、大変重要な課題である。そこで、私は子どもたちが外の世界に興味を持てるような教材を考え始めた。

そんな中、このプログラムを知った。学級にサッカーを習っている児童が多かったこともあり、ブラジルでの研修に参加し、現地の人々と関わり合い、その国が抱える問題についてじっくりと考え、多くを経験したいと思った。そして、経験したことを子どもたちに伝えたいと強く思った。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 ブラジルを知る① *ブラジルのイメージを形にする	●ブラジルのイメージをポスターにする。 ●ブラジルの言葉（あいさつ） （ありがとう／おはよう／さようなら）	●世界地図 ●ブラジル地図
2 時限目 ブラジルを知る② *ブラジルに関する基礎知識を学び、様々な価値観や日本とのつながりについて学ぶ。	●写真のスライドを見せながら説明する。 食文化・気候・日本からの距離・スポーツ ●訪問地の写真や現地から持ち帰ったモノ、ブラジルボックスの中身を見せながら、現地の様子などを説明する。	●写真 （パワーポイント） ●ブラジルのモノ ●ブラジルボックス （滋賀県国際協会から借用）

3時限目 日系ブラジル人について知る	<ul style="list-style-type: none"> ●ブラジルで撮影した日本的な写真や日系の人々を見せ、ブラジルに日本文化が活着ていることを説明する。 ●日本人の顔をした人々が、ブラジルにたくさん住んでいることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●写真（パワーポイント） ●ワークシート
4時限目 日系ブラジル人について深く考える	<ul style="list-style-type: none"> ●日系ブラジル人の歴史に触れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●TVビデオ ●教材プリント ●ワークシート
5時限目 アマゾンの森林破壊について知る	<ul style="list-style-type: none"> ●アマゾンの森林が違法に伐採されていることを知る。 ●日本にも違法に伐採された木材が運ばれていることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●写真 ●パワーポイント
6時限目 アグロフォレストリー農法について知る	<ul style="list-style-type: none"> ●世界が注目している新しい農法“アグロフォレストリー”について考える。 ●どのような利点がある農法なのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●写真 ●ビデオ
7時限目 ブラジルのイメージを表現する	<ul style="list-style-type: none"> ●今までの学習を思い返し、ブラジルのイメージをポスターにする。 ●ブラジルで撮影したブラジルの人々からのメッセージを見せる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ポスター用紙 ●ビデオ

3. 授業の詳細

1 時限目：ブラジルを知る①

ねらい…ブラジルのイメージを形にする。
 ブラジルの言葉を知る。

◆内容◆

- ① ブラジルのイメージを一人 BEST 4 まで出し、班で発表する。
- ② ブラジルで使われる簡単な言葉を知る。（ポルトガル語）

 **ポイント!**

ブラジルの様々なイメージを一つの形にし、イメージを統一する。



ポスターづくり

児童の反応

- ▶ アマゾンなど、様々なイメージがあがってきた。グループで同じイメージをもっていた子同士で共感し合う場面が見られました。

児童の感想

- ▶ ブラジルのイメージと聞かれて、あまり浮かばなかった。
- ▶ 「オブリガート（ありがとう!）」って使ってみようと思う。

◆所感◆ 最初、「ブラジルのイメージを書いてみましょう」と投げかけた時、ほとんど何も思い浮かばない児童が多かった。児童にとって、ブラジルが馴染みのない国だと感じた。言葉を伝えると、楽しそうに使おうとしていた。

2時限目：ブラジルを知る②

ねらい…ブラジルに関する基礎知識を学び、様々な価値観や日本とのつながりについて学ぶ。

◆内容◆

- ① ブラジルの位置・気候・食文化・スポーツ・人種・ブラジルが抱える問題について説明。
- ② ブラジルボックスの中身を紹介。

👉👉がポイント!

ブラジルボックスのブラジルの食文化や、生活文化、スポーツ、人種、ピアスをした赤ちゃんの人形などから、日本とは違う異文化があることに気づかせる。また、森林の違法伐採を写真と共に伝える。



ブラジル BOX を活用した授業

児童の反応

- ▶ ブラジルにはブラジルの文化があることを知り、驚いている児童が多かった。例えば、ピアスを開けている赤ちゃんの人形に対して、最初は「うわー、あかんやん！」と声をあげていたが、「これがブラジルの文化で、ピアスは赤ちゃんの幸せを願って、親戚から贈られるプレゼントなんだよ。」と伝えると、納得していた。

児童の感想

- ▶ 赤ちゃんがピアスをしているのは、ブラジルではあたり前なんだと知った。
- ▶ ブラジルの森林破壊、ひどいと思う。

◆所感◆

ブラジルに関する様々な写真や物を見たり、触れたりする中で、子どもたちから使い方など、様々な疑問が出てきた。子どもたち自身で、イメージを膨らませ、想像するようになり、ブラジルに対する興味も少しずつ深まっていたように思う。

3時限目：日系ブラジル人について知る

ねらい…日系ブラジル人について知識を深める。

◆内容◆

- ① 日本の文化がブラジルにも生きていることを知る。
- ② 人物の写真をブラジル人と日本人の2つに分ける。



日本とブラジルを分けてみよう

児童の反応

- ▶ 寿司の写真や、平仮名の看板を見て、大変驚いた様子だった。「何か、日本みたいやな～」と口々に言っていた。
- ▶ 日本人とブラジル人を見分ける活動でも、日本人の顔をした人々がブラジルにいることを不思議に感じている様子だった。

👉👉がポイント!

- ▶ ブラジルにあるはずのない日本文化がブラジルに存在することに気付かせる。
- ▶ 日本人のような顔をしているたくさんの人々が、どうしてブラジルに住んでいるのかを疑問に思わせる。

児童の感想

- ▶ 日本みたいな場所がブラジルにあって驚いた。
- ▶ 日本人みたいな顔の人がブラジルで生活しているのが不思議だった。

◆所感◆

子どもたちにとって、あまり親しみのなかった「ブラジル」という国の中に、日本文化が存在することを知り、少し身近な国になったようだった。また、ブラジルに、自分たちと同じような顔の人々が生活していることに対して、疑問に思っているようだった。

4時限目：日系ブラジル人について深く考える

ねらい…日系ブラジル人に関する基礎知識を学ぶ。

◆内容◆

- ① 日系ブラジル人が歩んできた歴史を知る。

👉👉がポイント!

- ▶ 日系ブラジル人について、分かりやすくまとめたビデオを活用して、歴史を伝える。

児童の反応

- ▶ 豊かな生活を目指してブラジルに渡った日本人が経験した苦労をまとめたビデオを、食い入るように見ていた。

児童の感想

- ▶ 日本に帰りたくても帰れなかった人々がブラジルにいたことを、初めて知った。
- ▶ 日本人の血をもった人がブラジルで生活していること、何だかうれしく思った。
- ▶ 森を開拓して畑にしていけるのは、大変だったと思う。

◆所感◆

100年ほど前、日本人が豊かな土地や生活を求めてブラジルに渡った歴史を知り、「どうしてブラジルに日本人の顔の人がいるのか」という大きな疑問が解けたようだった。今のブラジルに、日本のことを誇りに思っている人がいることを知り、子どもたちの中にも明るい光が見えたようだった。

5時限目：アマゾンの森林破壊について知る

ねらい…アマゾンの森林が違法伐採されている事実を知り、自分たちの生活にも関わっていることに気付く。

◆内容◆

- ① アマゾンの森林破壊の写真を見て、今も伐採が行われていることを知る。
- ② 伐採された木材は、日本にも運ばれてきていることを知る。

👉👉がポイント!

- ▶自分たちの生活には関係のないと思っていたアマゾンの森林伐採が、関係していることに気付かせる。自分の身近な問題として捉えられるようにする。

児童の
反応

- ▶最初は、アマゾンの森林伐採は日本に関係のないことだと思っていたようだが、日本も伐採された木材を利用していると知ると、より真剣な顔で問題を考えるようになった。

児童の
感想

- ▶「アマゾンの森林を守らないといけない!」と思った。
- ▶自分たちにも関係している問題と知って、何だか複雑な気持ちになった。

◆所感◆

最初は、森林破壊の問題をどこか他人事の問題のように捉えていた。しかし、自分たちにも、この問題が関係していることを知り、驚いたようだった。「何とかしないと!」と、自分たちなりに懸命に考える姿勢が見えた。

6時限目：アグロフォレストリー農法について知る

ねらい…アグロフォレストリー農法について知る。

◆内容◆

- ① 従来の農法の問題点について知る。
- ② 新たな農法“アグロフォレストリー”を考える。
- ③ 自分たちの考えをグループごとに発表する。



アグロフォレストリーでの授業

👉👉がポイント!

- ▶“アグロフォレストリー”について概要を知り、自分たちでアグロフォレストリー農法をヒントカードをもとに考えてみる。
- ▶自分たちの考えを、聞き手が分かりやすいように説明する。

児童の
反応

- ▶いきいきとグループで話し合い、アグロフォレストリーのメリットを考えることができた。

児童の
感想

- ▶“アグロフォレストリー”よく考えられた農法で、メリットがたくさんあって驚いた。
- ▶アグロフォレストリーの商品を買おうと思う。
- ▶少しでもアマゾンの森林が守られるとうれしい。

◆所感◆

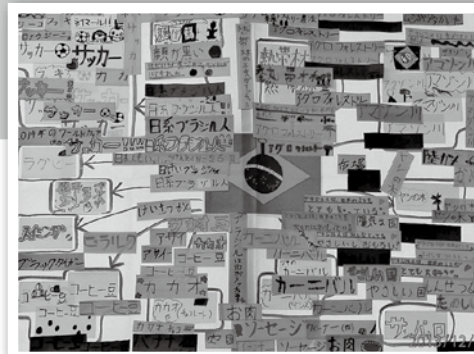
「アグロフォレストリー農法」がどんな農法なのか、子どもたちは自分たちで懸命に考えていた。ヒントカードを基に、メリットを自分たちで見つけることができ、いきいきと活動する姿が見られた。どのグループも、自信をもって発表することができていた。

7時限目：ブラジルのイメージを表現する

ねらい…ブラジルのイメージを表現する。

◆内容◆

- ① 今までの学習から得た知識を書きだしてみる。
- ② 1 時間目に行ったポスターに、貼り足す。
- ③ 日系ブラジル人からのメッセージをみる。



完成したポスター

👉👉がポイント!

- ▶ 1 時間目で作成したポスターに、新たなイメージを付け足すことで、自分たちが学んできたことを形にする。
- ▶ 日系ブラジル人やブラジル人からの生の声を聞き、ブラジルにより強い興味をもつ。

児童の 反応

- ▶ 1 時間目と比べて、スラスラとブラジルのイメージを書きだしていた。

児童の 感想

- ▶ もっとブラジルを知りたいし、将来、ブラジルに行ってみたいと思う。
- ▶ 最初は、ブラジルのイメージはサッカーしかなかったけど、今はどんどん浮かんでくる。
- ▶ ブラジルのことを知ることができて、ブラジルが近くなった気がする。

◆所感◆

ブラジルのイメージを書く姿は、1 時間目には見られなかった姿で、ポスターに入りきれないくらいの文字が溢れていた。ブラジルからのメッセージも、真剣に見ていた。何か感じてくれていたらと思う。

4. 成果

“教員”という仕事は、子どもたちに物事を語り伝える仕事である。一つ一つの出来事、問題に対して奥深くまで把握して、様々な視点から多面的に子どもたちへ伝えないと、間違った見解やモノの見方を教えてしまうことを感じた。

今回、1 時間目と7 時間目にポスターを作成した。学習の成果として、7 時間目にポスターを作った際は、子どもたちの中でどんどんと言葉が浮かんできたようだ。ブラジルに対して、大変興味をもち、将来、行ってみたいと思う子どもたちが多くなった。加えて、ブラジルの課題も自分のことと捉え、解決方法を考える子どもたちの姿を見ることができた。子どもたちが外の世界に興味を持ち、自分たちにできることを少しずつ考える力がついてきたと感じる。

5. 課題

今後の課題として二点のことを挙げる。

一つ目は、ブラジルの貧富の差について、まだ自分がしっかりと理解できていないことだ。伝え、子どもたちと共に考える必要のある事象だが、自分の中でまだ整理できていない。自分自身ももっと学び、多面的に物事を見ることができ視点を磨く必要がある。ワールドカップやオリンピックの開催など、大きなイベントが控えているブラジル、そんなブラジルの社会問題の一つである「貧富の差」、今後、子どもたちに伝えて行きたいと思う。

二つ目は、研修で集めたたくさんの情報や資料をもっと有効に活かすために、自分のパソコン操作能力を磨くことが課題である。子どもたちが楽しんで、意欲的に学ぶためにも、一層パソコン操作能力を磨いていきたいと思う。